

2017/3/13

## 柏の景気情報（平成29年2月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援課  
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18  
TEL : 04-7162-3305  
FAX : 04-7162-3323  
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>  
E-mail : [info@kashiwa-cci.or.jp](mailto:info@kashiwa-cci.or.jp)

## 柏の景気情報（平成29年2月分）

○ 調査期間 : 平成29年2月24日 ~ 平成29年3月8日

○ 調査対象 : 柏市内156事業所及び組合にヒアリング

### ＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	156	72	46.2%
建設	44	20	45.5%
製造	33	17	51.5%
卸・小売	43	22	51.2%
サービス	36	13	36.1%

○ 調査方法 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。  
と調査表

### 質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向 こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

### 質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 増加他の回答割合 - 3 減少他の回答割合$$

### ※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりの意味する。

### ※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成29年2月の調査結果のポイント】

◀業況DIは横ばい推移。先行きも未だ不透明感強く、横ばい圏内の動き▶

○2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22.2(前月水準▲24.3)となり、マイナス幅が2.1ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、。マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△5.8(同▲11.1)である。マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲20.0(同▲23.8)である。

マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲23.0(同▲7.1)、卸小売業▲45.4(同▲44.0)である。

【建設業】からは、「2月は前年の半分の売上となった。毎年、2～3月は年度末決算のため、繁忙期となるが、今年は1月から比較的受注が少ない。他社も今年の年度末案件が少ない状況で、施工単価を下げての競争が激化している。」(その他の職別工事業)、「一般家庭からの工事依頼が減少しているため、売上は減少傾向だが、柏市のポータルサイト「Look4かしわ」を見た他市のリフォーム会社等から問い合わせがあり、受注に繋がった。」(内装工事業)、などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「深刻な環境の変化は今のところ無いが、円安・原油高など先行き不透明な部分も大きいので、コスト削減の努力は引き続き行っている。」(酒類製造業)、「運転資金の借入を削減し、健全な資金繰りが行えるよう企業努力を続けている。次の段階として人材雇用や設備投資にむけて、準備を進めている。」(印刷業)、「大口顧客の生産が4月より20%増となる見込みであるため、売上増が期待できる見込み。」(一般産業用機械・装置製造業)、などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「2月も売上が今一つの状況。在庫を減らし、商品回転を高める努力をしている。衣料については在庫削減が功を奏し、粗利益は高まった。食品は全体的に価格が高騰、特に青果物、精肉は売価を抑えて粗利益が下がる傾向が続いている。バレンタイン商戦は、曜日合わせが良い年となったため、前年比102%、職場関係の義理チョコ需要が多く、千円前後が売れ筋となった。2月24日の初めてのプレミアムフライデーは、お買い得品を掲載したが反応は今一つで、効果につながるまで時間がかかりそう。中国の春節によるインバウンド効果は無かった。」(その他の各種商品小売業)、「競合スーパーマーケットとの攻防は今尚続いており、売上の減少は解消しつつあるが、利益が取りづらい状況。MD(マーチャンダイジング)の大きな変更が急務である。働き方、職場の環境等まだまだ変化をしていかなければならない。」(各種食料品小売業)、「バレンタイン商戦は、例年と大差なく、大型店と比べて盛り上がり欠けていた印象。」(菓子・パン小売業)、「季節は春を向かえ、産地商材が春物への変更が見られるが、鍋物の消費が少ない傾向にある他、桃の節句、梅祭りなど春本番を睨んだ取引が見込まれる。産地情報を取りながら、需要と供給のバランスを取って、安定取引を進めていきたい。」(食料・飲料卸売業)、などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「売上・利益共に増加傾向。仕入が厳しくなっており、商品(物件)在庫が不足してきている。」(不動産管理業)、「賃貸物件は好調に推移。街づくりの大きな視点として、今何が街に足りないかを街全体で考えていかないと、益々不便な街になってしまう危険性がある。」(不動産賃貸業)、「賃貸物件市場は概ね良好の内に、年度末の繁忙期を終了する事が出来そう。賃料相場は安定傾向。」(不動産賃貸・管理業)、などのコメントが寄せられた。

◎競争激化

各業種より、「建築業界も二極化が更に進み、専門分野での特化が生き残りの条件であると感じる。」(一般土木建築工事業)、「印刷業界もインバウンド対策を考えていかないと、都内大手の企画力に遅れをとってしまう。」(印刷業)、「デパートでは、衣料品売場が縮小傾向にあり、業界の不況は益々深刻化している。また、SC等への出店テナントでも低価格化が進み、ますます競争が激化している。」(婦人・子供服小売業)、「新年度関係の商品はおたかの森、柏の葉キャンパスの人口増により、客足と売上アップしたが、セールのため利益は少ない。柏の葉キャンパス駅付近の新たな商業施設の開店による客離れと売上減少が予想される。」(その他の食料品小売業) などのコメントが寄せられた。

◎人手不足

各業種より、「3月に向けて工場の組立の人員不足が予想される。」(その他の機械・同部品製造業)、「目下人手不足に悩んでいる。昨年後半ごろから3名ほど募集をかけているが、全く応募が無い状況が続いている。」(電子応用装置製造業)、「人手不足は深刻で、時給のアップも検討しなければならず、大きな利益減少の一因となる。」(各種食料品小売業)、などのコメントが寄せられた。

◎年度末需要

各業種より、「2月は大型案件の受注があり、業績は良かった。」(その他の職別工事業)、「年度末での駆け込み需要により、工数増。」(その他の機械・同部品製造業)、「年度末案件を消化中。WEB業界に求められるニーズを本格的に分析していく時期と考えている。」(ソフトウェア業)、などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
9月	▲20.0	▲11.1	▲16.6	▲50.0	△13.3
10月	▲22.2	±0.0	▲25.0	▲34.7	▲28.5
11月	▲24.3	▲25.0	▲14.2	▲41.6	▲6.2
12月	▲18.6	▲16.6	▲16.6	▲33.3	±0.0
1月	▲24.3	▲23.8	▲11.1	▲44.0	▲7.1
2月	▲22.2	▲20.0	△5.8	▲45.4	▲23.0
見通し	▲15.2	±0.0	△5.8	▲40.9	▲23.0

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成29年2月の業況についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲22. 2(前月水準▲24. 3)となり、マイナス幅が2. 1ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、。マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△5. 8(同▲11. 1)である。マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲20. 0(同▲23. 8)である。

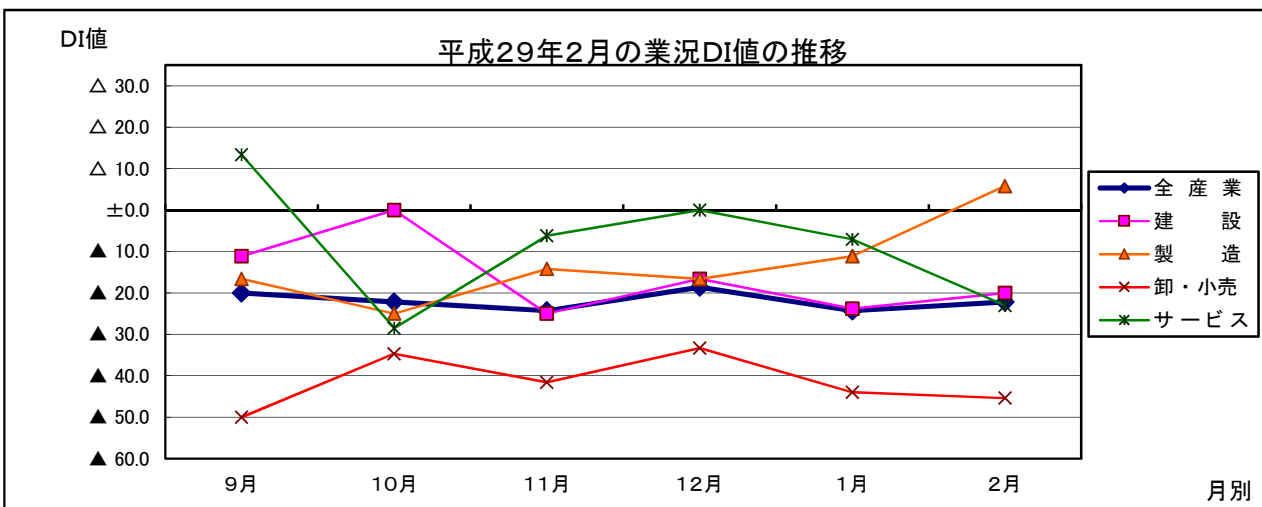
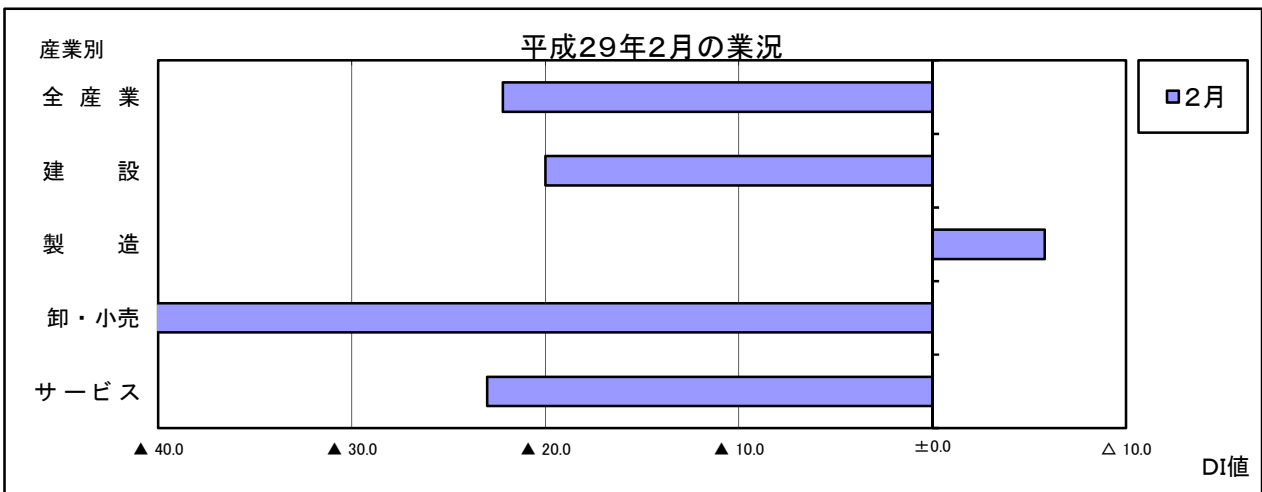
マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲23. 0(同▲7. 1)、卸小売業▲45. 4(同▲44. 0)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲15. 2(前月水準▲14. 1)となり、マイナス幅が1. 1ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、製造業△5. 8(同±0. 0)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、建設業±0. 0(同▲9. 5)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲40. 9(同▲28. 0)、サービス業▲23. 0(同▲14. 2)である。

平成29年2月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 9月	10月	11月	12月	平成29年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲ 20.0	▲ 22.2	▲ 24.3	▲ 18.6	▲ 24.3	▲ 22.2	▲ 15.2 ( ▲ 14.1 )
建設	▲ 11.1	±0.0	▲ 25.0	▲ 16.6	▲ 23.8	▲ 20.0	±0.0 ( ▲ 9.5 )
製造	▲ 16.6	▲ 25.0	▲ 14.2	▲ 16.6	▲ 11.1	△ 5.8	△ 5.8 ( ±0.0 )
卸・小売	▲ 50.0	▲ 34.7	▲ 41.6	▲ 33.3	▲ 44.0	▲ 45.4	▲ 40.9 ( ▲ 28.0 )
サービス	△ 13.3	▲ 28.5	▲ 6.2	±0.0	▲ 7.1	▲ 23.0	▲ 23.0 ( ▲ 14.2 )



【平成29年2月の売上についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11.1(同▲10.2)であり、マイナス幅が0.9ポイント拡大した。

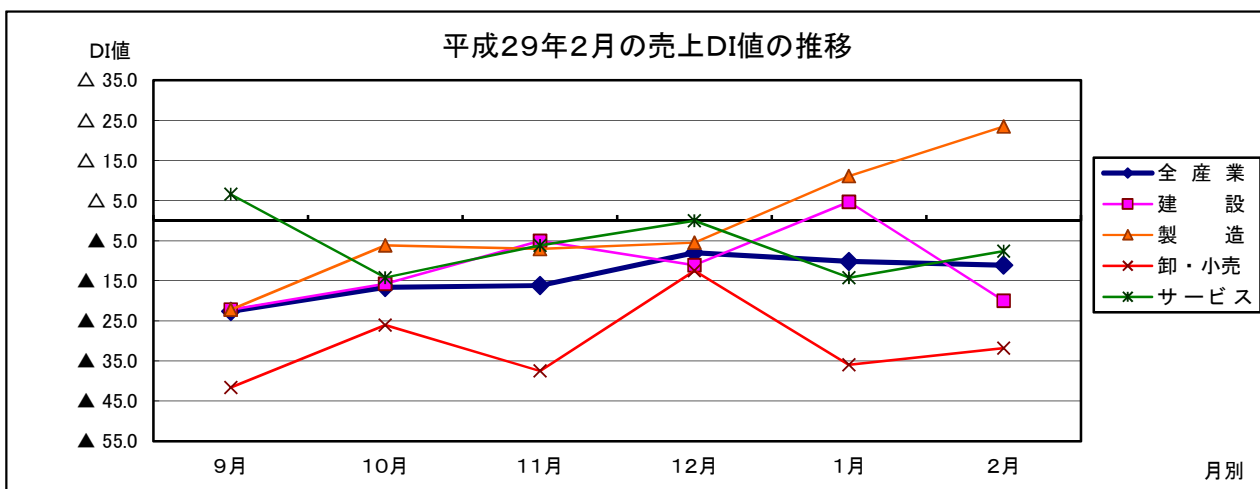
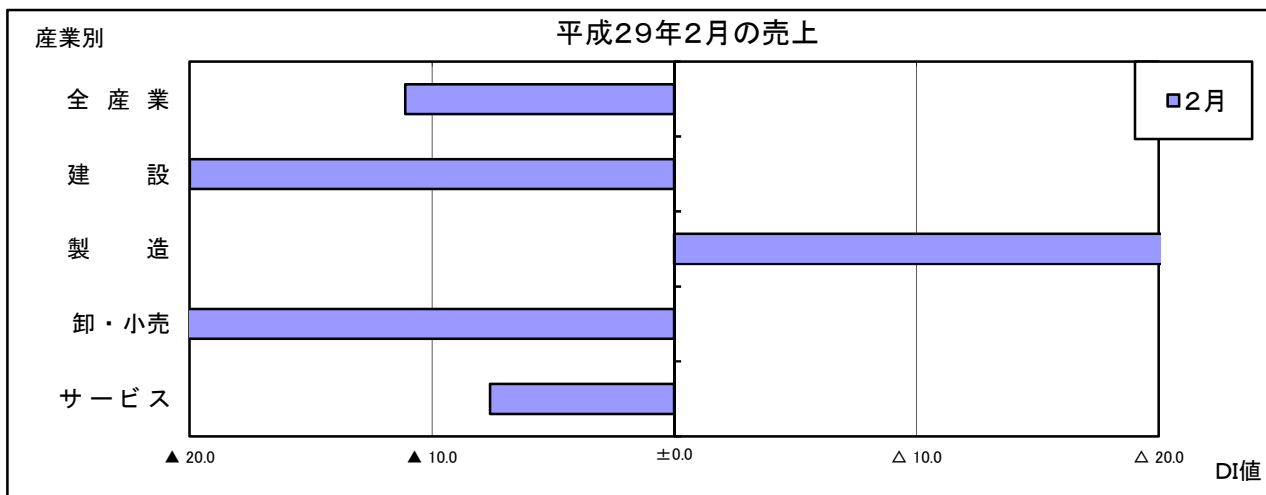
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、製造業△23.5(同△11.1)である。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲7.6(同▲14.2)、卸小売業▲31.8(同▲36.0)である。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲20.0(同△4.7)で、マイナス幅が24.7ポイントと大幅に悪化した。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲6.9(前月水準▲15.3)となり、マイナス幅が8.4ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業△15.3(同△7.1)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△23.5(同▲5.5)であり、プラス幅が29.0ポイントと大幅に改善する見通しである。マイナス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲40.9(同▲44.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、建設業▲15.0(同▲4.7)

平成29年2月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 9月	10月	11月	12月	平成29年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲22.6	▲16.6	▲16.2	▲8.0	▲10.2	▲11.1	▲6.9(▲15.3)
建設	▲22.2	▲15.7	▲5.0	▲11.1	△4.7	▲20.0	▲15.0(▲4.7)
製造	▲22.2	▲6.2	▲7.1	▲5.5	△11.1	△23.5	△29.4(▲5.5)
卸・小売	▲41.6	▲26.0	▲37.5	▲12.5	▲36.0	▲31.8	▲40.9(▲44.0)
サービス	△6.6	▲14.2	▲6.2	±0.0	▲14.2	▲7.6	△15.3(△7.1)



【平成29年2月の採算についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲16.6(前月水準▲16.6)となり、先月と変わらなかった。

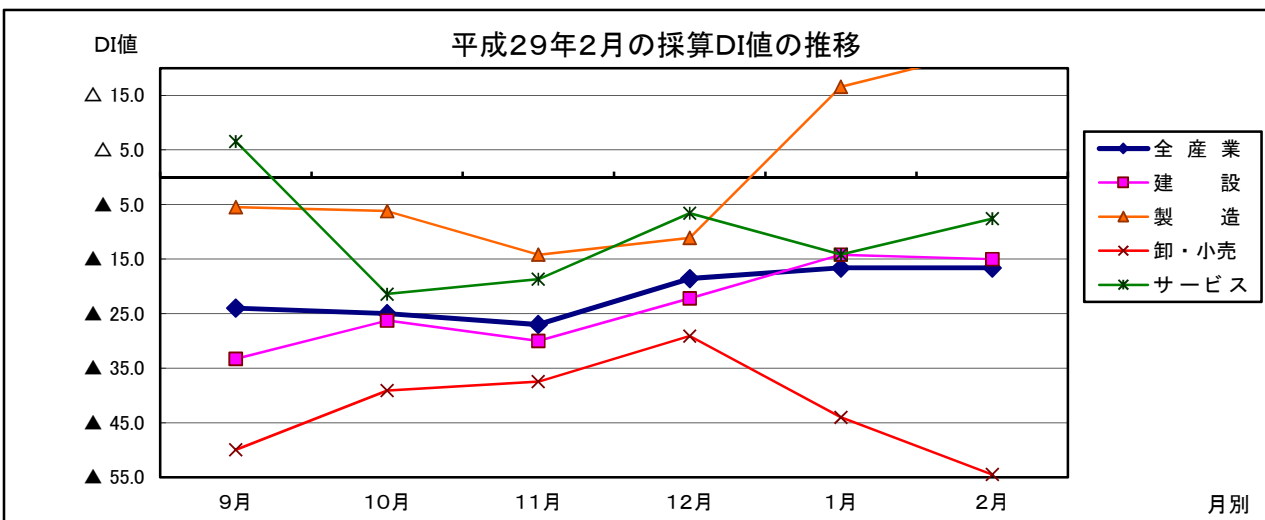
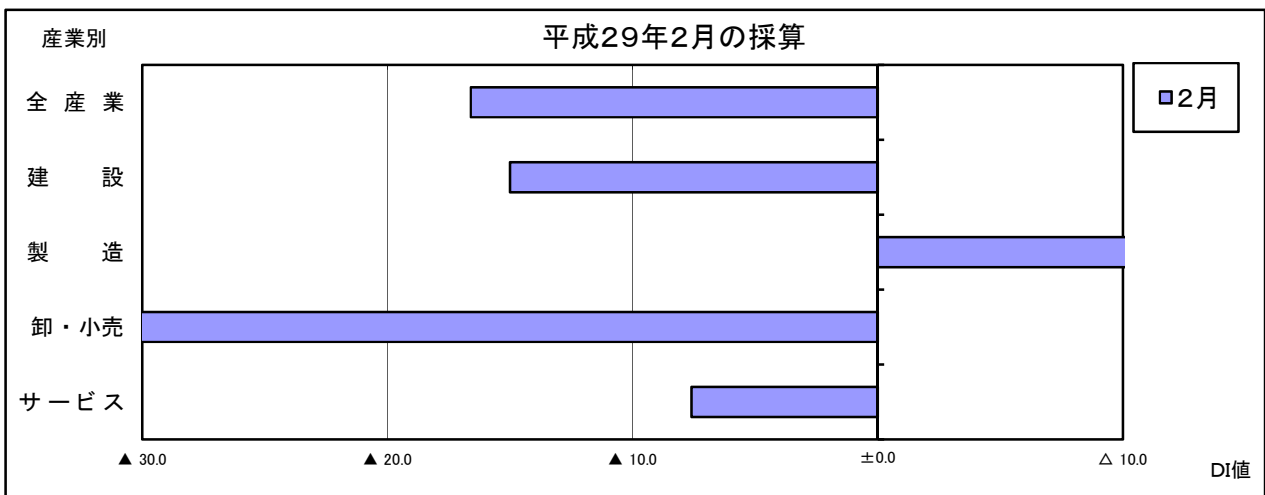
業種別では、プラス幅が拡大した業種は、製造業△23.5(同△16.6)である。マイナス幅が縮小した業種は、サービス業▲7.6(同▲14.2)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲54.5(同▲44.0)、建設業▲15.0(同▲14.2)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲15.2(前月水準▲19.2)であり、マイナス幅が4.0ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△23.5(同▲5.5)であり、プラス幅が29.0ポイントと大幅に改善する見通しである。変わらない見通しの業種は、サービス業±0.0(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲54.5(同▲44.0)、建設業▲15.0(同▲14.2)である。

平成29年2月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 9月	10月	11月	12月	平成29年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲24.0	▲25.0	▲27.0	▲18.6	▲16.6	▲16.6	▲15.2(▲19.2)
建設	▲33.3	▲26.3	▲30.0	▲22.2	▲14.2	▲15.0	▲15.0(▲14.2)
製造	▲5.5	▲6.2	▲14.2	▲11.1	△16.6	△23.5	△23.5(▲5.5)
卸・小売	▲50.0	▲39.1	▲37.5	▲29.1	▲44.0	▲54.5	▲54.5(▲44.0)
サービス	△6.6	▲21.4	▲18.7	▲6.6	▲14.2	▲7.6	±0.0(±0.0)



【平成29年2月の仕入単価についての状況】

○2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲29.1(前月水準▲25.6)となり、マイナス幅が3.5ポイント拡大した。

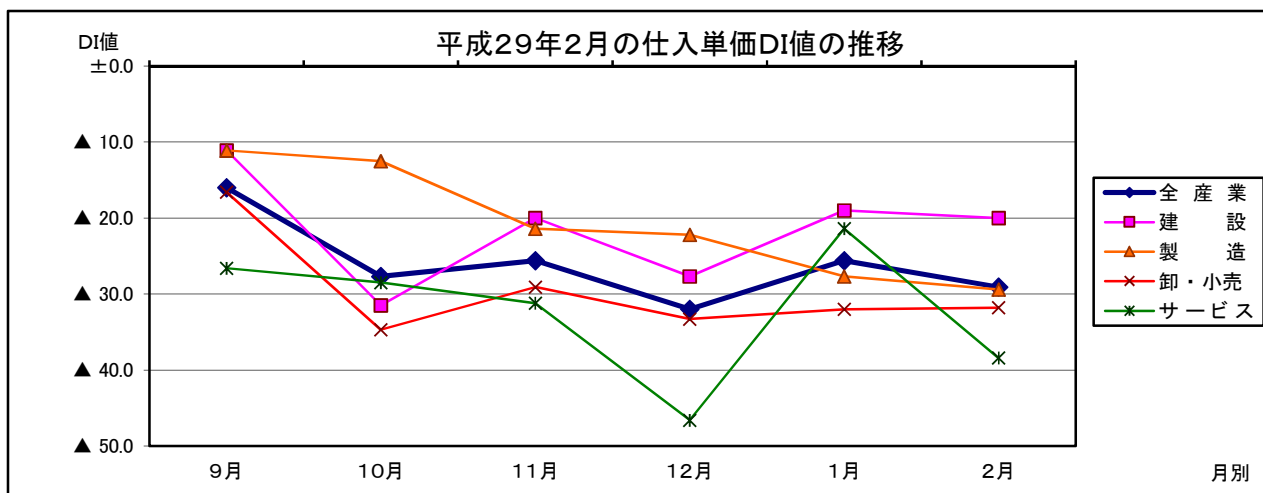
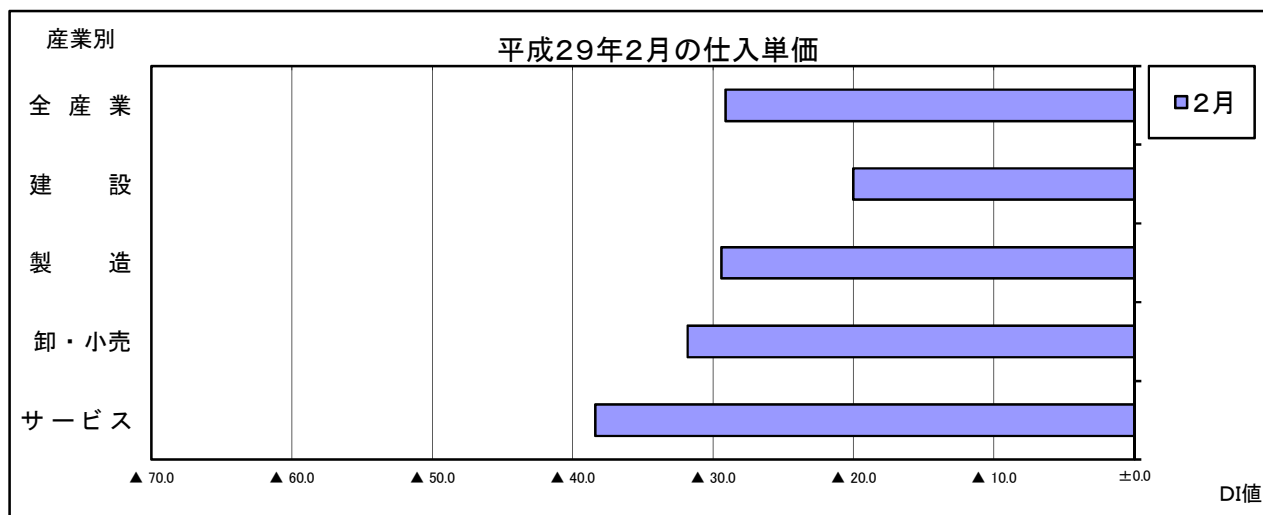
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲31.8(同▲32.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲38.4(同▲21.4)、製造業▲29.4(同▲27.7)、建設業▲20.0(同▲19.0)、である。

○向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲26.3(前月水準▲21.7)となり、マイナス幅が4.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、全ての業種でマイナス幅が縮小する見通しで、幅の大きい順に、サービス業▲38.4(同▲28.5)、建設業▲20.0(同▲14.2)、卸小売業▲36.3(同▲32.0)、製造業▲11.7(同▲11.1)である。

平成29年2月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 9月	10月	11月	12月	平成29年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲16.0	▲27.7	▲25.6	▲32.0	▲25.6	▲29.1	▲26.3(▲21.7)
建設	▲11.1	▲31.5	▲20.0	▲27.7	▲19.0	▲20.0	▲20.0(▲14.2)
製造	▲11.1	▲12.5	▲21.4	▲22.2	▲27.7	▲29.4	▲11.7(▲11.1)
卸・小売	▲16.6	▲34.7	▲29.1	▲33.3	▲32.0	▲31.8	▲36.3(▲32.0)
サービス	▲26.6	▲28.5	▲31.2	▲46.6	▲21.4	▲38.4	▲38.4(▲28.5)



【平成29年2月の従業員についての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△19.4(前月水準△21.7)となり、プラス幅が2.3ポイント縮小した。

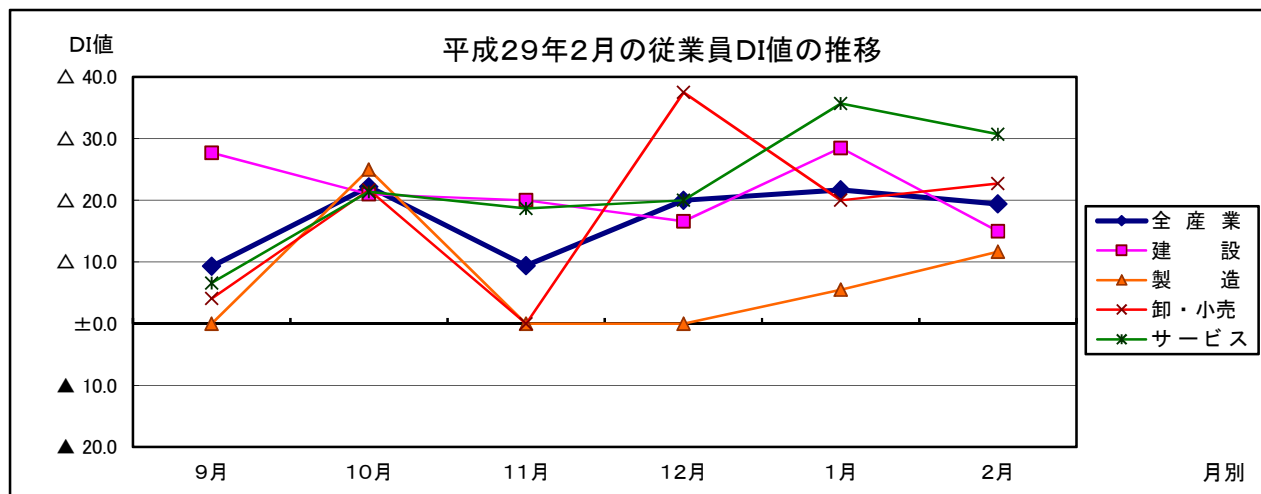
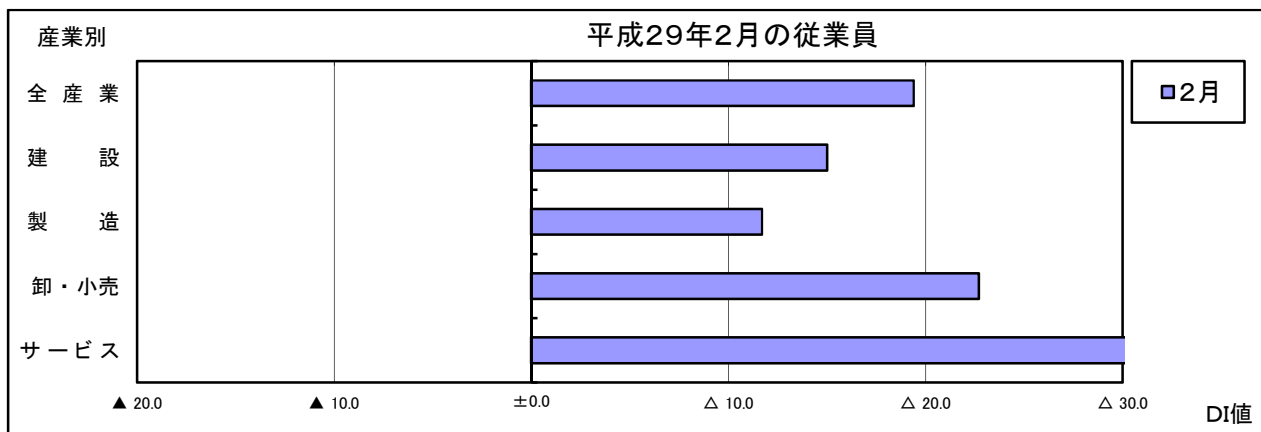
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、製造業△11.7(同±5.5)、卸小売業△22.7(同△20.0)である。プラス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業△15.0(同△28.5)、サービス業△30.7(同△35.7)、である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、△27.7(前月水準△21.7)であり、プラス幅が6.0ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業△36.3(同△12.0)、製造業△23.5(同△16.6)、サービス業△38.4(同△35.7)、であり、特に卸小売業ではプラス幅が24.3ポイントと大幅に改善する見通しである。プラス幅が縮小する見通しの業種は、建設業△15.0(同△28.5)である。

平成29年2月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成28年 9月	10月	11月	12月	平成29年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	△9.3	△22.2	△9.4	△20.0	△21.7	△19.4	△27.7(△21.7)
建設	△27.7	△21.0	△20.0	△16.6	△28.5	△15.0	△15.0(△28.5)
製造	±0.0	△25.0	±0.0	±0.0	△5.5	△11.7	△23.5(△16.6)
卸・小売	△4.1	△21.7	±0.0	△37.5	△20.0	△22.7	△36.3(△12.0)
サービス	△6.6	△21.4	△18.7	△20.0	△35.7	△30.7	△38.4(△35.7)





【平成29年2月の資金繰りについての状況】

○ 2月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲4. 1(前月水準▲7. 6)となり、マイナス幅が3. 5ポイント拡大した。

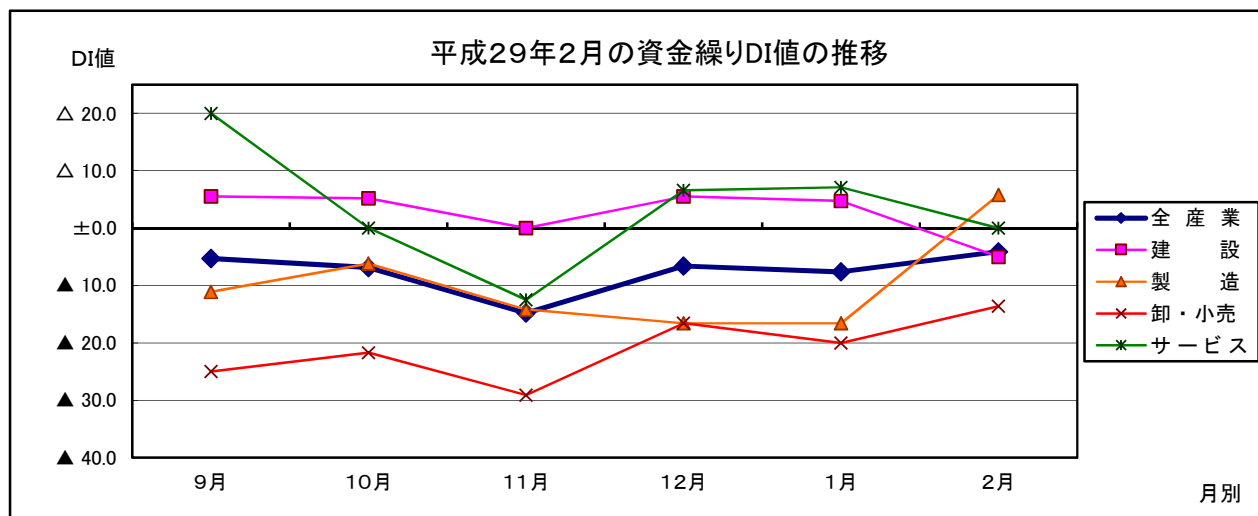
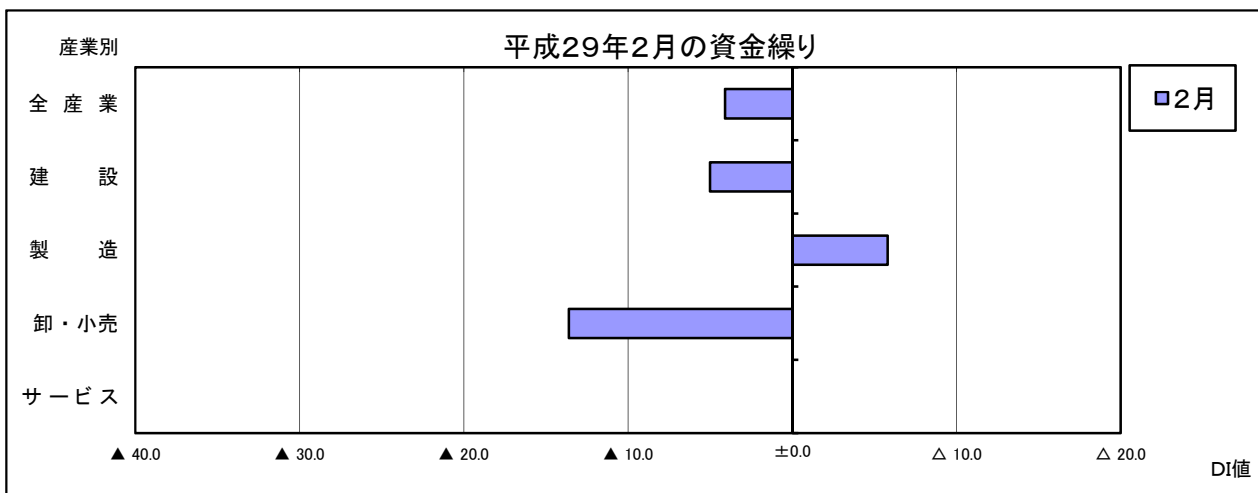
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△5. 8(同▲16. 6)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲13. 6(同▲20. 0)である。プラス幅が縮小した業種は、サービス業±0. 0(同△7. 1)である。プラスからマイナスに転じた業種は、建設業▲5. 0(同△4. 7)である。

○ 向こう3ヶ月(3月から5月)の先行き見通しについては、全産業では、▲1. 3(前月水準▲6. 4)となり、マイナス幅が5. 1ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△10. 0(同△4. 7)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業±0. 0(同▲5. 5)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、卸小売業▲13. 6(同▲20. 0)である。変わらない見通しの業種は、サービス業±0. 0(同±0. 0)である。

平成29年2月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成28年 9月	10月	11月	12月	平成29年 1月	2月	先行き見通し 3月~5月(2月~4月)
全産業	▲5.3	▲6.9	▲14.8	▲6.6	▲7.6	▲4.1	▲1.3(▲6.4)
建設	△5.5	△5.2	±0.0	△5.5	△4.7	▲5.0	△10.0(△4.7)
製造	▲11.1	▲6.2	▲14.2	▲16.6	▲16.6	△5.8	±0.0(▲5.5)
卸・小売	▲25.0	▲21.7	▲29.1	▲16.6	▲20.0	▲13.6	▲13.6(▲20.0)
サービス	△20.0	±0.0	▲12.5	△6.6	△7.1	±0.0	±0.0(±0.0)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 11.1	▲ 6.9	▲ 16.6	▲ 15.2	▲ 29.1	▲ 26.3	△ 19.4	△ 27.7
建設	▲ 20.0	▲ 15.0	▲ 15.0	▲ 15.0	▲ 20.0	▲ 20.0	△ 15.0	△ 15.0
製造	△ 23.5	△ 29.4	△ 23.5	△ 23.5	▲ 29.4	▲ 11.7	△ 11.7	△ 23.5
卸・小売	▲ 31.8	▲ 40.9	▲ 54.5	▲ 54.5	▲ 31.8	▲ 36.3	△ 22.7	△ 36.3
サービス	▲ 7.6	△ 15.3	▲ 7.6	±0.0	▲ 38.4	▲ 38.4	△ 30.7	△ 38.4

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 22.2	▲ 15.2	▲ 4.1	▲ 1.3
建設	▲ 20.0	±0.0	▲ 5.0	△ 10.0
製造	△ 5.8	△ 5.8	△ 5.8	±0.0
卸・小売	▲ 45.4	▲ 40.9	▲ 13.6	▲ 13.6
サービス	▲ 23.0	▲ 23.0	±0.0	±0.0

【平成29年2月業種別業界内トピックス】

業種別	概況	キーワード	業種
建設	建築業界も二極化が更に進み、専門分野での特化が生き残りの条件であると感じる。	二極化 専門特化 競争激化	一般土木建築工事業
	2月は前年の半分の売上となった。毎年、2～3月は年度末決算のため、繁忙期となるが、今年は1月から比較的受注が少ない。他社も今年の年度末案件が少ない状況で、施工単価を下げての競争が激化している。	売上減少 年度末需要 受注減少 価格競争 競争激化	その他の職別工事業
	一般家庭からの工事依頼が減少しているため、売上は減少傾向だが、柏市のポータルサイト「Look4かしわ」を見た他市のリフォーム会社等から問い合わせがあり、受注に繋がった。	受注減少 情報化 売上減少	内装工事業
	2月は大型案件の受注があり、業績は良かった。	年度末需要 業績向上	その他の職別工事業
製造業	印刷業界もインバウンド対策を考えていかないと、都内大手の企画力に遅れをとってしまう。	インバウンド 競争激化 差別化	印刷業
	年度末での駆け込み需要により、工数増。3月に向けて工場の組立の人員不足が予想される。	年度末需要 人手不足	その他の機械・同部品製造業
	運転資金の借入を削減し、健全な資金繰りが行えるよう企業努力を続けている。次の段階として人材雇用や設備投資にむけて、準備を進めている。	資金繰り改善 人材雇用 設備投資	印刷業
	深刻な環境の変化は今のところ無いが、円安・原油高など先行き不透明な部分も大きいので、コスト削減の努力は引き続き行っている。	円安 原油高 経費削減	酒類製造業
	大口顧客の生産が4月より20%増となる見込みであるため、売上増が期待できる見込み。	受注増加 先行き好調	一般産業用機械・装置製造業
	目下人手不足に悩んでいる。昨年後半ごろから3名ほど募集をかけているが、全く応募が無い状況が続いている。	人手不足	電子応用装置製造業
卸小売	デパートでは、衣料品売場が縮小傾向にあり、業界の不況は益々深刻化している。また、SC等への出店テナントでも低価格化が進み、ますます競争が激化している。	業況悪化(衣料品) 低価格化 価格競争 競争激化	婦人・子供服小売業
	2月も売上が今一つの状況。在庫を減らし、商品回転を高める努力をしている。衣料については在庫削減が功を奏し、粗利益は高まった。食品は全体的に価格が高騰、特に青果物、精肉は売価を抑えて粗利益が下がる傾向が続いている。バレンタイン商戦は、曜日合わせが良い年となったため、前年比102%、職場関係の義理チョコ需要が多く、千円前後が売れ筋となった。2月24日の初めてのプレミアムフライデーは、お買い得品を掲載したが反応は今一つで、効果につながるまで時間がかかりそう。中国の春節によるインバウンド効果は無かった。	在庫削減 利益率向上(衣料品) 価格高騰(食品) バレンタイン商戦 プレミアムフライデー インバウンド	その他の各種商品小売業
	競合スーパーマーケットとの攻防は今尚続いており、売上の減少は解消しつつあるが、利益が取りづらい状況。MD(マーチャндаイジング)の大きな変更が急務である。また、人手不足は深刻で、時給のアップも検討しなければならない。またそれも大きな利益減少の一因となる。働き方、職場の環境等まだまだ変化をしなければならぬ。	競争激化 利益率悪化 人手不足	各種食品小売業
	バレンタイン商戦は、例年と大差なく、大型店と比べて盛り上がり欠けていた印象。	バレンタイン商戦	菓子・パン小売業
	季節は春を向かえ、産地商材が春物への変更が見られるが、鍋物の消費が少ない傾向にある他、桃の節句、梅祭りなど春本番を睨んだ取引が見込まれる。産地情報を取りながら、需要と供給のバランスを取って、安定取引を進めていきたい。	春物需要(食料品)	食料・飲料卸売業
サービス業	新年度関係の商品はおたかの森、柏の葉キャンパスの人口増により、客足と売上アップしたが、セールのため利益は少ない。柏の葉キャンパス駅付近の新たな商業施設の開店による客離れと売上減少が予想される。	売上増加 利益率悪化 競争激化	その他の飲食料品小売業
	売上・利益共に増加傾向。仕入が厳しくなっており、商品(物件)在庫が不足してきている。	売上増加 利益率向上 在庫不足	不動産管理業
	賃貸物件は好調に推移。街づくりの大きな視点として、今何が街に足りないかを街全体で考えていかないと、益々不便な街になってしまう危険性がある。	業況回復(不動産)	不動産賃貸業
	賃貸物件市場は概ね良好の内に、年度末の繁忙期を終了する事が出来そう。賃料相場は安定傾向。	業況回復(不動産)	不動産賃貸・管理業
	年度末案件を消化中。WEB業界に求められるニーズを本格的に分析していく時期と考えている。	年度末需要	ソフトウェア業

## ◎競争激化

各業種より、「建築業界も二極化が更に進み、専門分野での特化が生き残りの条件であると感じる。」(一般土木建築工事業)、「印刷業界もインバウンド対策を考えていかないと、都内大手の企画力に遅れをとってしまふ。」(印刷業)、「デパートでは、衣料品売場が縮小傾向にあり、業界の不況は益々深刻化している。また、SC等への出店テナントでも低価格化が進み、ますます競争が激化している。」(婦人・子供服小売業)、「新年度関係の商品はおおたかの森、柏の葉キャンパスの人口増により、客足と売上アップしたが、セールのため利益は少ない。柏の葉キャンパス駅付近の新たな商業施設の開店による客離れと売上減少が予想される。」(その他の飲食料品小売業)、などのコメントが寄せられた。

## ◎人手不足

各業種より、「3月に向けて工場の組立の人員不足が予想される。」(その他の機械・同部品製造業)、「目下人手不足に悩んでいる。昨年後半ごろから3名ほど募集をかけているが、全く応募が無い状況が続いている。」(電子応用装置製造業)、「人手不足は深刻で、時給のアップも検討しなければならず、大きな利益減少の一因となる。」(各種食料品小売業)、などのコメントが寄せられた。

## ◎年度末需要

各業種より、「2月は大型案件の受注があり、業績は良かった。」(その他の職別工事業)、「年度末での駆け込み需要により、工数増。」(その他の機械・同部品製造業)、「年度末案件を消化中。WEB業界に求められるニーズを本格的に分析していく時期と考えている。」(ソフトウェア業)、などのコメントが寄せられた。











## 平成29年2月CCI - LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲22.2に対し、「CCI-LOBO」が▲24.0で柏の方がマイナス幅が1.8ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業、サービス業である。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲11.1に対し、「CCI-LOBO」が▲21.8で柏の方がマイナス幅が10.7ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、卸小売業、サービス業であり、製造業とサービス業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業であり、10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲16.6に対し、「CCI-LOBO」が▲21.7で柏の方がマイナス幅が5.1ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業であり、製造業では10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業である。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲29.1に対し、「CCI-LOBO」が▲25.9で柏の方がマイナス幅が3.2ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、建設業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、製造業、卸小売業、サービス業である。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△19.4に対し、「CCI-LOBO」が△18.2で柏の方がプラス幅が1.2ポイント大きい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業、サービス業である。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業である。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲4.1に対し、「CCI-LOBO」が▲12.2で柏の方がマイナス幅が8.1ポイント小さい。業種別では、全ての業種で「柏の景気」の方が良く、製造業、サービス業では10ポイント以上良い。











# 平成29年2月の柏の景気天気図











柏の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 22.2	 ▲ 20.0	 △ 5.8	 ▲ 45.4	 ▲ 23.0
CCI-LOBO	 ▲ 24.0	 ▲ 14.6	 ▲ 17.1	 ▲ 40.4	 ▲ 18.6


売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 11.1	 ▲ 20.0	 △ 23.5	 ▲ 31.8	 ▲ 7.6
CCI-LOBO	 ▲ 21.8	 ▲ 8.9	 ▲ 16.0	 ▲ 38.9	 ▲ 22.1


採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 16.6	 ▲ 15.0	 △ 23.5	 ▲ 54.5	 ▲ 7.6
CCI-LOBO	 ▲ 21.7	 ▲ 14.1	 ▲ 13.3	 ▲ 38.1	 ▲ 21.8

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 29.1	 ▲ 20.0	 ▲ 29.4	 ▲ 31.8	 ▲ 38.4
CCI-LOBO	 ▲ 25.9	 ▲ 27.4	 ▲ 23.8	 ▲ 25.7	 ▲ 29.5

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 △ 19.4	 △ 15.0	 △ 11.7	 △ 22.7	 △ 30.7
CCI-LOBO	 △ 18.2	 △ 22.2	 △ 6.3	 △ 25.0	 △ 23.8

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
柏の景気	 ▲ 4.1	 ▲ 5.0	 △ 5.8	 ▲ 13.6	 ±0.0
CCI-LOBO	 ▲ 12.2	 ▲ 6.0	 ▲ 11.5	 ▲ 22.5	 ▲ 11.2

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「柏の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

# 柏の景気情報

(2月の調査結果のポイント)

調査期間：平成29年2月24日～3月8日

調査対象：柏市内156事業所及び組合に  
ヒアリング、回答数72件

柏の景気情報・産業別業況D I

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
9月	▲20.0	▲11.1	▲16.6	▲50.0	△13.3
10月	▲22.2	±0.0	▲25.0	▲34.7	▲28.5
11月	▲24.3	▲25.0	▲14.2	▲41.6	▲6.2
12月	▲18.6	▲16.6	▲16.6	▲33.3	±0.0
1月	▲24.3	▲23.8	▲11.1	▲44.0	▲7.1
2月	▲22.2	▲20.0	△5.8	▲45.4	▲23.0
見通し	▲15.2	±0.0	△5.8	▲40.9	▲23.0

「見通し」は今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しD I

## 柏市の業況

業況D Iは横ばい推移。先行きも未だ不透明感強く、横ばい圏内の動き

2月の全産業合計のD I値(前年同月比)ベース、以下同じは、▲22.2(前月水準▲24.3)となり、マイナス幅が2.1ポイント縮小した。業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、製造業△5.8(同▲11.1)である。マイナス幅が縮小した業種は、建設業▲20.0(同▲23.8)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲23.0(同▲7.1)、卸小

売業▲45.4(同▲44.0)である。

【建設業】からは、「2月は前年の半分の売上となった。毎年、2～3月は年度末決算のため、繁忙期となるが、今年は1月から比較的受注が少なくない。他社も今年の年度末案件が少ない状況で、施工単価を下げての競争が激化している。」(その他の職別工事業)、「一般家庭からの工事依頼が減少しているため、売上は減少傾向だが、柏市のポータルサイト「Looock4かしわ」を見たところ市のリフォーム会社等から問い合わせがあり、受注に繋がった。」(内装工事業、などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは、「深刻な環境の変化は今のところ無いが、円安・原油高など先行き不透明な部分も大きいので、コスト削減の努力は引き続き行っている。」(酒類製造業)、「運転資金の借入を削減し、健全な資金繰りが行えるよう企業努力を続けている。次の段階として人材雇用や設備投資にむけて、準備を進めている。」(印刷業)、「大口顧客の生産が4月より20%増となる見込みであるため、売上げが期待できる見込み。」(一般産業用機械・装置製造業)、などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「2月も売上が今一つの状況。在庫を減らし、商品回転を高める努力をしている。衣料については在庫削減が功を奏し、粗利益は高まった。食品は全体的に価格が高騰、特に青果物、

精肉は売価を抑えて粗利益が下がる傾向が続いている。パレンタイン商戦は、曜日合わせが良い年となったため、前年比102%、職場関係の義理チョコ需要が多く、千円前後が売れ筋となった。」(その他の各種商品小売業)、「競合スーパーマーケットとの攻防は今尚続いており、売上の減少は解消しつつあるが、利益が取りづらい状況。MD(マーチャンダイジング)の大きな変更が急務である。働き方職場の環境等まだまだ変化を

していかねければならない。」(各種食料品小売業)、「バレンタイン商戦は、例年と大差なく、大型店と比べて盛り上がりには欠けていた印象。」(菓子・パン小売業)、「季節は春を向かえ、産地商材が春物への変更が見られるが、鍋物の消費が少ない傾向にある他、桃の節句、梅祭りなど春本番を睨んだ取引が見込まれる。産地情報を取りながら、需要と供給のバランスを取って、安定取引を進めていきたい。」(食料・飲料卸売業)、などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは、「売上・利益共に増加傾向。仕入が厳しくなっており、商品(物件)在庫が不足してきている。」(不動産管理業)、「賃貸物件は好調に推移。街づくりの大きな視点として、今何が街に足りないかを街全体で考えていかないと、益々不健全な街になってしま

う危険性がある。」(不動産賃貸業)、「賃貸物件市場は概ね良好の内に、年度末の繁忙期を終了する事が出来そう。賃料相場は安定傾向。」(不動産賃貸・管理業)、などのコメントが寄せられた。

【2月の景気キーワード】  
◎競争激化  
各業種より、「建築業界も二極化が進み、専門分野での特化が生き残りの条件であると感じる。」(一般土木建築工事業)、「デパートでは、衣料品売場が縮小傾向にあり、業界の不況は益々深刻化している。また、SC等への出店テナントでも低価格化が進み、ますます競争が激化している。」(婦人・子供服小売業)、「新年度関係の商品は周辺の人口増により、客足と売上アップしたが、セールのため利益は少ない。柏の葉付近の新たな商業施設の開店による客離れと売上減少が予想される。」(その他の飲食料品小売業)、など

のコメントが寄せられた。

◎人手不足  
各業種より、「3月に向けて工場の組立の人員不足が予想される。」(その他の機械・部品製造業)、「目下人手不足に悩んでいる。昨年後半ごろから3名ほど募集をかけているが、全く応募が無い状況が続いている。」(電子応用装置製造業)、「人手不足は深刻で、時給のアップも検討しなければならず、大きな利益減少の一因となる。」(各種食料品小売業)、などのコメントが寄せられた。

◎年度末需要  
各業種より、「2月は大型案件の受注があり、業績は良かった。」(その他の職別工事業)、「年度末での駆け込み需要により、工数増。」(その他の機械・同部品製造業)、「年度末案件を消化中。WEB業界に求められるニーズを本格的に分析していく時期と考えている。」(ソフトウェア業、などのコメントが寄せられた。

【C I・L O B Oとの比較】  
全産業合計では、「柏の景気」が▲22.2に対し、「C I・L O B O」が▲24.0で柏の方がマイナス幅が1.8ポイント小さい。業種別では、「柏の景気」の方が良い業種は、製造業であり、10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は、建設業、卸小売業、サービス業である。

# CCI - LOBO

## 商工会議所早期景気観測 (2月速報)

調査期間：平成29年2月14日～20日

調査対象：全国の423商工会議所が2982企業にヒアリング調査を実施

### 全国の業況

**業況DIは、足踏み。先行き改善見込むも、懸念材料多く、慎重な見方続く**

2月の全産業合計の業況DIは、▲24.0と、前月から▲1.0ポイントの悪化。大雪など天候不順による客足減少や消費者の節約志向、人手不足の影響などにより、サービス業・卸売業の売上が減少した。また、建設業や製造業を中心に原材料や燃料の値上りを指摘する声

が聞かれた。中小企業の景況感、電子部品、自動車関連の生産や住宅など民間工事の底堅い動きに下支えされているものの、改善に向けた動きは足踏み状況となっている。

先行きについては、先行き見通しDIが▲16.7（今月比+7.3ポイント）と改善を見込むものの、「悪化」から「不変」への変化が主因。インバウンドを含む消費の拡大や設備投資の増加、海外経済の回復に加え、プレミアムフライデーを契機とする個人消費の喚起に期待する声も聞かれる。他方、消費の一段の悪化や人手不足の影響拡大、米国大統領の政策の不透明感、原材料・燃料価格

の上昇による収益悪化などへの懸念から、中小企業においては業績改善に確信を持たず、業況感はいくらか悪化しているの見方が続く。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、建設業、小売業で改善、サービス業でほぼ横ばい、その他の2業種で悪化した。各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「民間工事が堅調なことに加え、大雪の影響で市からの除雪関連の発注が増え、売上は改善した」（土木工事業）、「従来行われていなかった4～6月の公共工事の入札が行われるなど、発注時期の平準化が始まっている。人手不足の緩和につながることを期待する」（一般工事業）

【製造業】「スマートフォン向けの生産が順調なことに加え、昨秋と比べた足元の円安もあり、輸出額は増加した。今後も売上高の改善が見込まれる」（電子部品製造業）、「受注はあるが、人手不足により社内で対応しきれない作業が多い。外注への依存度が高まり、利益率が落ち

ている」（金属加工機械製造業）、「建設や自動車関連の取引先からの引き合いが多く、フル生産の状況となっている」（製鉄業）

【卸売業】「昨秋からの農産物価格の高騰が落ち着き、前年に比べ主力商品の仕入価格は下落した」（農産物卸売業）、「鋼材仕入価格の上昇が続けば、採算が圧迫されるが、当面は輸出が好調で、売上の改善が続くと見込んでいる」（鋼材卸売業）

【小売業】「足元の円安の影響もあり、春節の売上高は堅調に推移した。ただし、単価減を客数増加でカバーする構図は変わらない」（化粧品等小売業）、「全体の売上は低調だが、バレンタイン商戦は好調で、自分へのご褒美ギフトなど高級感のある商品がよく売れた」（百貨店）、「来店客数が安定しており、売上は堅調。プレミアムフライデーに備えて様々なプランを用意し、さらなる売上拡大を図りたい」（飲食料点小売業）

【サービス業】「日本海側を中心とした記録的大雪の影響で主要道路が通行止めとなり、来店客数は減少し、売上が悪化した」（飲食業）、「前

年に比べ、様々な地域で大雪となり、配送遅れが生じている。ドライバー不足と相まって、業務を処理しきれない」（運送業）、「取引先の輸出入が活発で、売上は改善した。米国大統領の政策に対する懸念はあるが、しばらく売上は高水準を維持できそうだ」（倉庫業）

### 全国・産業別業況DIの推移

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
9月	▲27.8	▲16.1	▲24.7	▲27.7	▲43.5	▲23.8
10月	▲25.5	▲12.9	▲18.1	▲29.0	▲47.6	▲20.7
11月	▲22.9	▲11.0	▲18.2	▲26.4	▲38.5	▲20.3
12月	▲21.7	▲12.7	▲19.6	▲22.5	▲38.2	▲14.6
1月	▲23.0	▲16.7	▲13.9	▲25.4	▲42.0	▲18.5
2月	▲24.0	▲14.6	▲17.1	▲32.5	▲40.4	▲18.6
見通し	▲16.7	▲12.6	▲10.1	▲21.0	▲30.0	▲12.1